

小学校版
がん教育プログラム
補助教材

本プログラムは健康教育の一環として、
がんについての正しい理解と、
がん患者や家族など、がんと向き合う人々に対する
共感的な理解を深めることを通して、
自他の健康と命の大切さについて学び、
共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を
図ることを目的としています。

本教材を活用するにあたっての留意事項

命についての授業になります。児童の家庭状況や心理面の配慮が必要です。
本誌P.10の留意事項を、必ずご確認ください。

日本人の死因の第1位はがんです。3割近くの方ががんで亡くなっています。そして、日本人の2人に1人は、一生のうち何らかのがんになると推計されています。がんは、命にかかわる病気ですが、現在では、早期に発見し、適切に治療をすれば、治らない病気ではなくなってきました。日本の未来を担う子どもたちに、がんの正しい知識や、生きること、命の大切さを理解してほしいと願っています。

プログラムのねらいと特色

がんをテーマとして教育で扱う際に最も大切なことは、「生きている限り誰にでも起こりうる病気や死といかに向き合うか」という正解のない問いにふしと考えることを通じて、「健康と命」について考えることです。

本プログラムでは、がんについて基本的なことを理解するとともに、児童が主体的に考え、行動する力を育成することを目的とし、3つの視点からのアプローチ手法を組み込みました。

がん教育

がんを扱うことを通じて、ほかの様々な療病の予防や望ましい生活習慣の確立を含めた健康教育の充実を図る。

がんの正しい知識を
理解する

生きること、
命の大切さを理解する

がんについて基本的なことを理解するとともに、「健康と命の大切さ」について、児童が主体的に考え、行動する力を育成することを目的に3つの視点からアプローチします。

子どもの実態を
よく理解している
教員による
進行とワーク

がんについて
正しい知識を提供する
医療関係者医師映像

がんと向き合い、
今を生き生きと生きる
がん患者の
インタビュー映像

提供教材

補助教材



本誌
※ねらい・授業進行方法
などを紹介しています。

映像教材

映像教材①
「がん博士の「がんについて
の基礎知識」」
がんについての知識を伝える。



映像教材②
「がんと生きる」
がん患者の思いや考えを伝える。
※2名のエピソードのうち、どちらか
選択してご使用ください。



ワークシート



ポスター 枠（縦書き、横書き）

小学校版プログラムの概要

対象/関連教科

小学校高学年~/特別活動・道徳

所要

基本授業 (45分)
発展授業 (45分~)

ねらい

- ・がんについての正しい知識「予防できること」「早期発見によって治療する可能性が高いこと」を理解する。
- ・がん患者による「がんを経験したことによる『生きる』ことへの思い」や、「がんと向き合いながら生き生きとした日常生活を送る」ことを中心とした「健康と命の大切さ」について考える。

※学校区・養護教諭や、実際のがん経験者の協力によって、インタビュー・講話が可能の場合は、映像教材を使わずに、直接話を聞く場面を位置づけることで、学習がより深まります。

プログラムの構成

基本授業 がんを知る レクチャー編 (45分)

導入 (7分)

- 教員
- ・がんについてどのような前提だと思っているかを伺い、がんについてどのようなイメージを持っているのが確認する。
 - ・健康のねらいを伝える。

がんについて正しく学び、自分や大切な人のために自分ができることを考えよう。

展開① (15分)

- 教員
- ・がんについて正しい知識を得ることの重要性を説明する。
 - ・がんについての知識を伝える。

【映像教材】がん博士の「がんについての基礎知識」
 がんについての知識。特に「科学的な医学情報による『予防』と、定期検診による『早期発見』」の重要性を伝える。

【学校区関係者】

※学校区・養護教諭など、医療関係者による講話を位置づけることで、より深い学びが可能です。

展開② (20分)

- 教員
- ・がん患者の経験を伝える。

【映像教材】がんと生きる。
 がん患者のように感じしめ、乗り越えたのか、生き生きとした生活を送る現在の姿には、どのような考えがあるのかを伝える。

【がん経験者】

※関係のがん患者を招いてのインタビューや講話を位置づけることで、より深い学びが可能です。

まとめ (3分)

- 教員
- ・授業をふりかえり、これからの生活につなげさせる。

発展授業 大切な人のために自分ができることを考える ワーク編

周りの人にもどう伝えるかなどを考える活動を通して、学びを主体的・対話的にふりかえり、より深い学びにつなげていくことをねらいとしています。基本授業との続きで実施されることを推奨します。

展開

- 教員
- ・基本授業の学びをふりかえらせる。
 - ・学んだことをさらに深めるために、以下のワークを行わせる。

大切な人の命のために、がんについて伝える資料をまとめよう。

- ・つくった資料を、グループや全体で発表させ、考えを共有させる。
- ・基本授業から連続した児童の考えの姿を評価し、「健康と命の大切さ」を伝える。

外部講師を活用したがん教育の進め方

がん教育の実施にあたり、がんそのものの理解やがん患者に対する正しい認識を深めるためには、がんの専門家（外部講師）との連携が効果的です。「外部講師を用いたがん教育ガイドライン」を参照のうえ、学校の実情に合ったがん教育を推進してください。

外部講師を用いたがん教育については、本誌に一部抜粋して紹介していますが、詳しくは文部科学省「外部講師を用いたがん教育ガイドライン」をご参照ください。

外部講師を用いたがん教育ガイドライン

検索

基本方針

地域や学校の実情に応じて、学校医、がん専門医、がん患者、がん経験者など、それぞれの専門性が生かせるよう指導の工夫を行い、教員と連携を密に図りながら実施する。

●実施の手順（例）

	学校内	外部講師との関係
①企画	<ul style="list-style-type: none"> 保護士系など中心となる教員を決め、がん教育を企画する。（テーマ、時期、講師、実施形態など） 	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関に講師の派遣を依頼する。（事前打診、依頼状送付、打ち合せ日程調整）
②打ち合わせ	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の共通理解を図り、内容について話し合う。 教科書などの資料を準備し、講師予定者との打ち合わせに備える。 	<ul style="list-style-type: none"> 講師予定者と指導内容、指導方法について打ち合わせる。（日程、役割分担、準備物、留意事項の確認）
③準備	<ul style="list-style-type: none"> 児童への配布資料や視聴覚機材を準備する。 必要に応じて事前学習・事前指導を行う。 また、保護者、児童への事前調査を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 講義や視聴覚機材の最終確認をする。 講師と学校の役割分担を確認をする。
④外部講師を活用したがん教育	<ul style="list-style-type: none"> ねらいの説明、講師の紹介を行う。 がん教育を実施する。 	[がん教育を実施する]
⑤実施後の指導	<ul style="list-style-type: none"> 関連教科と結びつけた指導を行う。 児童から質問、感想を募める。 	<ul style="list-style-type: none"> 講師に感想を尋ねる。 児童の感想をまとめ、指導上の課題や実施後の指導について話し合う。
⑥評価まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 成果と課題について担当者で話し合い、次年度に生かす。 結果を教職員で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 講師および講師の関係先に礼状を出す。

●実施のポイント

- 学校が主体となって企画・運営を行う。
- 授業を担当する教員だけではなく、全ての教職員の共通理解のもとに進める。
- 保護者への広報、各発活動と同時に進行すると効果的。関係者、関係機関と継続的に連携する。
- 年度当初の職員会議等で外部講師を活用したがん教育の開催予定を周知するなど、情報を共有する。

実施上の留意点

●外部講師の選定

□健康と命の大切さをねらいとした場合…

医療関係者だけでなく、がん患者やがん経験者による指導も効果的だと考えられる。

□がんに関する科学的根拠に基づいた理解をねらいとした場合…

学校医、がん専門医（がん診療連携拠点病院の活用を考慮）など、医療従事者による指導が効果的と考えられる。

●運営上の留意点

□本教材を活用した授業にあたっての留意事項（P.10参照）を講師と事前に共有する。

□授業計画の作成にあたっては、授業を企画する教員が主体となるよう留意する。

□がん患者・経験者の体験談は貴重であるが、家族に経験者がいる場合などには、強い印象を与える可能性があることに留意する。

□教員と外部講師は、事前・事後に打ち合わせを行い、授業のねらいを共通理解することが重要である。

□各教員が実施する授業と、外部講師の協力を得て実施する授業や学校行事等に関連させることにより教育効果を高めることができる。

依頼を受けた外部講師の方へ

●内容と指導のポイント

講師が伝えたい内容で一方的に授業を構成したり、児童が理解できない難解な言葉（専門用語）を用いすぎず、対象となる児童の理解力など、発音・発達段階を十分考慮し、わかりやすい言葉づかいや内容を心がけましょう。

□わかりやすい例を示すと学習効果が高まります。

□怖さを強調するのではなく「自他の健康と命の大切さを主体的に考えることができるようになることが充実した人生につながる」という積極的なメッセージが含まれることを念頭に置きましょう。

がんを学ぼう！あなたと大切な人の命のために

【1時間（45分）】

時間	学習活動	指導上の留意点など
導入 10分	<p>1. がんに対してどのようなイメージをもちているか確認し、ねらいを伝える。</p> <p>※授業中心が苦しくなったら休憩して授業を受け続けなくてもよいことを伝える。</p> <p>①がんと自分との関わりを伝えさせる。</p> <p>②児童にがんについてどのような病気だと感じているかを問いかける。</p> <p>③問いつけ 「がん」とは、どのような病気ですか？</p> <p>④知っていることをワークシートに記入させ、グループで考えを共有する。ワークシート ①</p> <p>⑤何人かの児童に発表させ、全体で共有する。</p> <p>⑥がんは、命にかかわる病気であるが、絶対に治らない病気ではないこと、正しい知識を学び、自分や大切な人を守ることを考えていくことの重要性を伝える。</p> <p>2) 授業のねらいを伝える。</p> <p>⑦ねらいを伝える。</p> <p>ねらい： がんについて正しく学び、自分や大切な人のために自分ができることを考えよう。</p>	<p>がんを説明した授業では、必ず以下のことを意識し、伝えること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勇退しがんを罹患している人をうつろいさせるかもしないこと ・がん患者の人生を尊重し、正しい知識を伝えることを通して、がんとがん患者への偏見や差別をなくすこと
展開 35分	<p>2. がんについて理解する。</p> <p>1) がんについて、正しい知識を得ることの重要性を感じさせる。</p> <p>①がんについての正しい知識への関心を高めるクイズを出題する。</p> <p>[クイズ1]</p> <p>②問いつけ 「このがん」と、こくさんの場所があるけれど、あなたはいくつ知っていますか？</p> <p>☆解説…児童の答えを称賞し、その部位を児童自身に触らせるなどして、体のいろいろな部位ががんになることを確認し、自分に引きつけて促させる。また、「血が出るような切り傷や骨折と一緒に？違う？」などとさらに問いかけ、がんの原因について興味・関心を高める。</p> <p>[クイズ2]</p> <p>③問いつけ がんの予防、あなたは何を知っていますか？</p> <p>☆解説…児童の考えを引き出した後、「手術をすれば、がんを取り除くことができるけれど、ならないのが一番だよ。どうすればよいか知っている？」などと問いかけたり、「あなたは今、がんにならない対策を何かしている？」と問いかけたりして、正しい知識を得ることの必要性を感じさせる。</p> <p>2) がんについての知識を伝える。 ワークシート ②</p> <p>①正しい知識を得るために映像教材を視聴することを伝える。また、映像教材を視聴しながら、わかったこと、大切に感じたことをワークシートに記入するよう伝える。</p> <p>②映像教材を視聴する。 医療関係者との連携でより深い学びが可能です</p> <p>映像教材①「がん博士の「がん」についての基礎知識」(6分35秒)</p> <p>③ワークシートに記入した内容を、グループで共有させる。</p> <p>④何人かの児童に発表させ、全体で共有する。</p> <p>⑤映像教材①の内容(質問②)を参考に、がんについて考えるときに大切なことをおさえる。</p> <p>がんは、生活習慣とこのアス「予防」と、検査などによる「早期発見」が重要である。</p>	<p>①②の映像教材の部分は、学校版あるいは家庭版が別冊すると、より効果的に学びを深めることができます。</p> <p>●がんの種類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・胃がん、大腸がん、肝臓がん、肺がん、乳がん、子宮がん、など。 <p>(中・高学年向け「がんの検査方法のしくみ」に詳しくあります。本誌P.11を参照してください)</p> <p>●映像教材の内容は、「A」を参照してください。</p> <p>⑤がんには、遺伝原因が多く関わっているものが多い。がん患者の全てが、生活習慣が原因だったのがんに化けるとは必ずしも関係ないよう注意する。</p>

時間	学習活動	発着上の留意点など
15分 20分	<p>3. がん患者の思いを理解する。</p> <p>1) がん患者の痛さを伝える。 ワ・クシート ③</p> <p>① がん患者の経験から学ぶために映像教材を視聴することを伝える。 また、映像教材を視聴しながら、心に残ったことをワークシートに記入するよう伝える。</p> <p>映像教材を視聴する。 がん患者との遭遇でより深い学びが可能です</p> <p>映像教材②「がんと生きる」(約5分)</p> <p>※2名のエピソードのうち、どちらかを選択して視聴させる。</p> <p>② ワ・クシートに記入した内容を、グループで共有させる。</p> <p>③ 何人かの児童に発表させ、全体で共有する。</p> <p>④ がんを乗り越える強さ、また、生きることについて大切なことをおさえる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>例) がんを乗り越え、それを乗り越えていく強さ、生き生きとしている様子が見られる。また、自分のためだけでなく、支えてくれた家族、ほかのがん患者のために、力を尽くしているという命の生きざまから、「生き大切に。ということ」を学ぶことができる。最後のメッセージ、「自分の人生、自分の命を大切に。」という言葉、しっかりと受けとめていこう。</p> </div> <p>※ ②③④のあとに「発着授業」の内容を組み合わせると学びが深まって効果的です。</p>	<p>原簿の映像教材の部分は、実際のがん患者を演じる俳優やインタビュイーになると、より効果的に学びを深めることができます。</p> <p>● 映像教材の「生きる」P.8 ※お祈りください。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※ 「しっかりとがんを乗り越える」というような回復感や、「しっかりと生きる」というような生き生きとした生きざまを伝えることで、がんを乗り越えることについて、自分自身も生き生きと生きていくことができるようになる。</p> </div>
まとめ 3分	<p>4. 学びをふりかえり、これからの生活につなげる。</p> <p>1) 授業を通じた児童の考えの発展を評価し、健康と命の大切さを伝える。</p> <p>① 教員からのメッセージを語る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>例) 命にかかってくる病気。がんについて学び、自分や大切な人が生きるといふことについて、考えた。がんに負けない体、健康な体をつくるのが大事だね。そして、命は、何よりも大切なこと。自分と、そして全ての命を、大切にしたい。</p> </div> <p>2) これからの生活につなげる。(宿題) ワークシート ④</p> <p>① これからの生活で大切にしていきたいと思うこと、お家の人に伝えることを宿題で、ワークシートに記入して帰るように伝える。</p>	<p>ワークシートには、宿題として、プログラムの学びを家庭の人に伝えるワークを掲載しました。児童が自分と大切な人の命について考えを深めたことが、多くの立場から評価付けられることと変わらなっています。児童の学習成果は記録しながら、ご活用ください。</p>

【発展授業】

大切な人のために自分ができていることを考えよう！ [1時間 (45分) ～]

周りの人に伝える内容を考える活動を通して、学びを主体的・対話的にふりかえり、より深い学びにつなげていくことをねらいとしています。基本授業との続きで実施されることを推奨します。

1) 基本授業での学びをふりかえらせる。

- ① 学習前のがんに対するイメージと、今の自分の考えとを比較させる。
- ② 自分が知識、予防や早期発見と治療ができること、もし罹患しても生き生きと生きていくことが大切であることを確認し、正しい知識・情報の重要性と必要性を伝える。

2) 理解した知識をさらに深める。

- ① ワークの概要を説明する。

ワークシート 4-① 実践

Q ワーク 4-① 大切な人の命のために、がんについて伝える資料をつくろう。

これまで学んだ情報を活用して、がんについて伝える資料を作成する。
※ 資料は、ポスターや新聞、作文、レポートなど学習の目的に応じて決まることが多い。
(ポスターを作成される場合、ポスター枠をご利用ください)

- ② 作成した資料を、グループで共有させ、何人かの児童に発表させ、全体で共有させる。

- ③ 作った資料を自分たちで、学習したことをお家の人や、大切な人に話すように伝える。

3) これからの生活につなげる。(※基本授業「まとめ」参照)



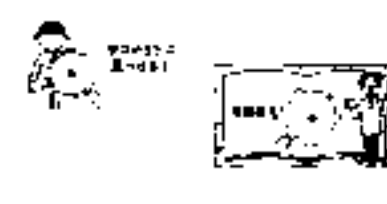

- ① これからの生活で大切にしていきたいと思うことを、ワークシートに記入させる。

● 学習前のイメージとの比較
- がんについて、学習する前「怖い」「治らない」というようなイメージが多かったことが学習される。しかし、正しい知識を得れば、必ずしも致命的になる必要はないこと、自分ができることがあることを確認し、学びにつなげる。

● 児童にとって大切な人が、病気の進行の心配をしている場合は、「思いやりのある人」を支援するだけではなく、「思いやりのある人を支える」ようなアドバイスをする。


参考資料【映像教材】

映像教材①「がん博士の「がんについての基礎知識」(5分35秒)」


	<p>質問① どうしてがんになるの？</p> <p>「どうしてがんになるのか」について、説明しよう。私たちの体は、たくさんの細胞でできている。この細胞は、同じことの繰り返ししながら新しくなっていくんだけど、まれに、だの細胞ができてしまつて、それが、がん細胞になることがあるんだ。がん細胞は、どんどん増えいく。そうすると、正しい細胞が正しく働かなくなってしまふ。その病気のことをがんと言ふんだ。私たちの体はたくさんの細胞からできているのだから、がんという病気は誰もがなる可能性があると病気なんだよ。</p>
	<p>質問② がんにならないためには、どうすればいいの？</p> <p>原因の一つには、たばこ、そして、お酒の飲みすぎ、さらに、生活習慣の乱れ、お肉を多く食べて、野菜はあまり食べなかったり、糖分を取りすぎたりしまふなど。また、運動不足や食べ過ぎによる太りすぎ、肥満に、やむを得ずよくない。がんになる可能性が高くなってしまふ。がんの原因をつくらない予防のためにも、健康によい生活習慣を送る、とが大切だ。</p>
	<p>質問③ がんは、なおすことができるの？</p> <p>がんがまだ小さいうちに治療すれば、ほとんどの人のがんをなおすことができるようになったんだ。だから、小さいうちに、がんを見つけることが大切。で、お話ししたこと、がんが小さいときは自覚症状がなく、自分自身では気づきにくい。気づいたときにはすでにがんが大きくなってしまっていることが多いんだ。だから、「早期発見」と言って、できるだけ小さいうちに早く見つけることが大切なんだよ！</p>
	<p>質問④ どうすればがんを早く見つけられるの？</p> <p>がんかどうかを調べるのは、必ず、何の症状がなくてもお医者さんに定期的に診てもらふ。「がん検診」が必要なんだ。検診では、尿や血など、体のそれぞれの場所に応じた検査をして、自分では気づかない小さな異常を見つけていることができるんだ。みんな、早く見つけば、ほとんどが治る可能性の高い病気。対策には、まず予防、健康によい生活習慣。そして、もう一つが、早期発見のためのがん検診。このフックをよく覚えておいて、実行してほしい。そしてみんなの大切な家族にも、伝えてほしい。元気に毎日を送るために、健康が大切。健康のためにできることを今から始めよう。</p>

映像教材の「がんと生きる」

目谷川一男さんのエピソード(5分24秒)

	<p>がんとわかったときは、もう涙が真っ白で、当時、小学4年生の息子と幼稚園児の娘がいたので、子どもにどう伝えようか、4日間絶食しながら泣いたのを覚えています。自分が治療に向き合ってきたのは、一人のお医者さんの「可能性はゼロじゃない、ゼロでないんだから頑張らなきゃいけない。」という言葉。それから、子どもたち、妻のために、精進いくばく先牛と肉し合っで治療法を決め、治療を進めていきました。</p> <p>私が今、一番大切にしているのは、私が経験したことを、がんを患う人たちに共有していくことです。みんなで話し合う場所をつくって、病気に関する勉強会を開いています。そこに、先生を呼んで、相談しながら正しい情報を受け取り、情報発信をしています。みんなで話し合う場所をつくっているのです。</p> <p>みなさんには、「病気になっても自分の人生なので後悔しないように生きる。」ということをお伝えしたいです。自分の人生を大切に、後悔しない、そういう生き方をしてほしいと思っています。</p>
---	---

真本久留さんのエピソード(5分03秒)

	<p>がんとわかったのは検査でした。とて右ショックで、死してしまつて後悔の念が1番大きかったです。でも、毎日のようにお昼寝の間に来くられた薬の効果が功を奏して、治療ががんばることになりました。今にパン屋で仕事をしています。毎日朝は早く早いし、パン屋の仕事はすごく力を使つて肉体的労働ですが、やっぱり自分がやりたかった仕事に就いて本当に良かったと、毎日思っています。</p> <p>今、大切にしていることは、家族のためのバランスのよい食事を作って、家族が健康であるように努めることです。今までの献立がけた分、家族には頑張ってほしいと考えています。毎日家族と一緒に笑っている時がとて幸せです。</p> <p>健康でもっとは自分の夢を叶えます。バランスのよい食事を作って、規則正しい生活をして、毎日過ごしててください。そして、家族を大切にしたいと思っています。</p>
---	---

本教材を活用した授業にあたっての留意事項

●児童の心理面について

家族や身近な人ががんの治療中であつたり、がんによって亡くなつたりしている児童への心理面の配慮が必要です。

事前調査を行うなどして、実態を把握し、授業内容について事前に話をしておくなど、必要に応じた対応をしてください。

また、がんの原因は解明されていない部分もあり、わかっている原因については対策をとれますが、現在の科学ではがんに罹患する可能性をゼロにできないため、がん患者を支える社会の必要性に気づかせるという学習の方向性が重要です。

●小児がんについて

本プログラムで扱うがんは「成人のがん」であり、「小児がん」について学ぶものではありません。特に、小児がんの治療中あるいは既往歴のある児童がいる場合は、事前に当該児童の保護者にも授業実施にあたって注意すべき点を確認しておくなどの配慮が必要です。

●生活習慣病とがんとの関連性について

規則正しい生活習慣によって、将来がんになる危険性を低くすることができますが、絶対にがんにならないわけではありません。

※がんには、まだ原因が判明していないものもある。全てのがん患者が、生活習慣が悪かったという誤った印象を与えないよう注意する。

●喫煙や飲酒について

未成年の喫煙や飲酒は、法律で禁じられていることを説明するだけでなく、がんやその他の病気の予防のために、成人になっても喫煙や過量の飲酒を抑える気持ちを育てる必要があります。

●がん検診について

がん検診によって早期にがんを発見することができ、治る可能性が高くなります。体に不調がなくても定期的に検診を受け、体に不調がある場合は、無理や我慢をせず、病院で診てもらうことが大切です。

●指導する予防法について

本プログラムで紹介するがんの予防については、現状で推奨できる科学的根拠に基づいたものについて示しています。しかし、現在もがんに関する研究は進められており、今後がんに関連する情報が更新されることが予想されます。そのため、常に正しい情報の収集・活用が大切です。

参考資料・webサイト

●文部科学省「がん教育推進のための教材」

学校においてがん教育を実施するに当たり、効果的な指導が行えるよう作成された補助教材です。




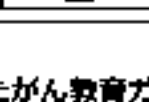
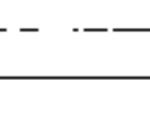
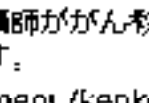
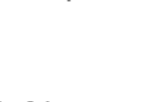
http://www.mext.go.jp/a_menu/kankou/hoken/1369992.htm

●株式会社キャリアリンク「がん教育プログラム（中学校・高等学校版 補助教材）」

(文部科学省委託事業)

上述した「がん教育推進のための教材」に対応したスライド教材です。

全9モジュール分のスライド教材が用意されています。

スライド					
1	がんといふ言葉		6	がんの治療で大切なこと	
2	日本のがんの現状		7	がん治療の支援	
3	がんの発生と進行		8	がん患者のおおひ	
4	がんの予防		9	がん患者とともに生きる社会	
5	検診の意味				

●文部科学省「外部講師を用いたがん教育ガイドライン」

学校において、医師等の外部講師ががん教育を実施するに当たり、最低限留意すべき事項等を示すガイドラインです。

http://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1369991.htm

●国立がん研究センターがん対策情報センター「がん情報サービス」

<http://ganjoho.jp/>

本プログラム作成にあたっては、作成委員会を設置し、アドバイスおよび監修をいただきました。

作成委員会メンバー一覧（五十音順）

榎田 誠治氏（聖心女子大学 文学部教育学科教授）

藤崎 好加氏（岡山県教育庁）保健体育課 健康・安全教育班 指導主事

中川 新一氏（東京大学医学部附属病院 放射線科准教授、緩和ケア診療部長（兼任））

林 和彦氏（東京女子医科大学 がんセンター長 化学療法・緩和ケア科教授）

広野 光子氏（がんを明るく前向きに語る・会つなぎの会（自助努力の患者会）代表、ジャーナリスト）

平成29年3月
株式会社キャリアリンク
〔文部科学省委託事業〕

中学校・高等学校版
がん教育プログラム

補助教材

本プログラムは健康教育の一環として、
がんについての正しい理解と、
がん患者やその家族など、がんと向き合う人々に対する
共感的な理解を深めることを通して、
自他の健康と命の大切さについて学び、
共に生きる社会づくりに寄与する資質・能力の育成を
図ることを目的としています。

本教材を活用するにあたっての留意事項

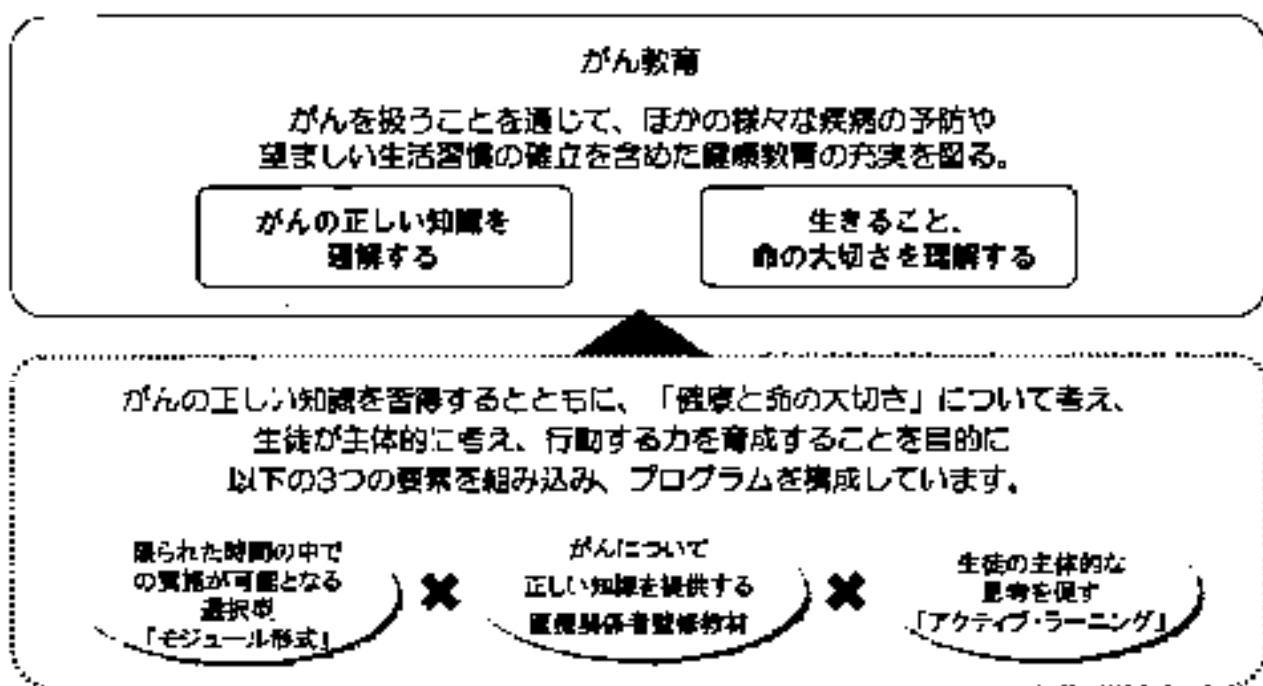
命についての授業になります。生徒の家庭状況や心理面についての配慮が必要です。
本書P.6の留意事項を、必ずご確認ください。

日本人の死因の第1位はがんです。3割近くの方ががんでなくなっています。
 そして、日本人の2人に1人は、一生のうちに何らかのがんになると推計されています。
 がんは、命にかかわる病気ですが、現在では、早期に発見し、適切に治療をすれば、
 治らない病気ではなくなってきました。日本の未来を担う子どもたちに、
 がんについて正しく理解し、命を大切にしたいと願っています。

プログラムのねらいと特長

がんをテーマとして扱う際に大切なことは、「生きといる限り誰にでも起こりうる病気や死といかに向き合うか」という下解のない問いについて考えることを通じて、「自分らしい生き方」や「健康と命の大切さ」について考えることです。

そのため、本プログラムでは、がんに対する正しい知識の習得とともに、生徒が主体的に考え、行動につなげられるような内容をめざし作成しています。



提供教材

全9モジュール分の教材を用意しています。学校での授業のねらいに合わせて自由にアレンジしてご活用ください。

スライド教材



全9モジュール分のスライド
をご用意しています。

補助教材



各モジュールのねらい・授業進行の
方法を紹介します。

映像教材（小学生向け）



小学生向けには映像教材を採択しています。
必要に応じてご活用ください。（詳細P.18）

オプション

プログラム概要

本プログラムは文部科学省「がん教育推進のための教材」にもとづき、9つのモジュールを選択して学習いただけます。また、中学校・高等学校で活用いただけるよう、1モジュール15分程度で構成。学校のねらいに合わせ、必要なモジュールを選択し、組合わせてご利用ください。

※プログラムは教員が活用できるように作成していますが、学校の実情に合わせ、学校医やがんの専門医、がん患者など、外部機関の参加・協力による連携環境にてより学習が深まります。（P.4を参照ください）

対象学年 中学校・高等学校

関連教科 保健、道徳、総合的な学習の時間、特別活動 など

いずれのモジュールも15分程度で実施いただけます。

	モジュールタイトル	概要	ページ
1	がんという病気	がんとは体の中で異常細胞が無限に増え続けてしまう病気である。がんは一部遺伝要因はあるが、 習った生活習慣により、なる危険性が増す。	P.7
2	日本のがんの現状	がんは日本人の死因の第1位で、2人に1人はがんになる可能性がある。がんは細胞分裂の際に発生するため、加齢にとどまらず若いがんになる人が増え、 難症となりうる病態である。	P.8
3	がんの発生と進行	がんは発生から自覚症状が出るまでの期間が長い ため、早期に発見するためには、 症状がなくても検診を受けることが重要である。	P.9
4	がんの予防	がんになる危険性を減らすための工夫としては、 たばこを吸わない、ほかの人のたばこの煙を避ける、バランスのとれた食事や適度な運動、定期的ながん検診などが重要である。	P.10
5	検診の意味	がんになった場合、早期がんに関しては約95%が治る。早期に発見するためには、 症状がなくても定期的に検診を受けることが重要である。	P.11
6	がんの治療で大切なこと	がん治療には、 3つの柱（手術、放射線、化学）があり、がんの種類と進行度に応じて単独や、組合わせで行われているが、医師と相談しながら主体的に選択することが重要である。	P.12
7	がん治療の支援	がんの治療には、 病気に伴う体と心の痛みを和らげる緩和ケア があり、 終末期だけでなく、がんと診断された時から受けるものである。	P.13
8	がん患者のおちい	がんの治療は、 単に病気を治すだけでなく、治療中、治療後の“生活の質”を大切に、がんになってもその人らしく、充実した生活方をすることが重要である。	P.14
9	がん患者とともに生きる社会	がん患者は増加しているが、 生存率が高まり、治る人、社会に復帰する人、病気を抱えながらも自分らしく生きる人が増えてきている 。そのような人々と社会生活を行っていく中で、 がん患者への偏見をなくし、お互いに支え合い、共に暮らししていくことが大切である。	P.15

ねらいに合わせたモジュールの組合せ例を紹介しています。

P.19

外部講師を活用したがん教育の進め方

がん教育の実施にあたり、がんそのものの理解やがん患者に対する正しい認識を深めるためには、がんの専門家（外部講師）との連携が効果的です。

「外部講師を用いたがん教育ガイドライン」を参照のうえ、

学校の実情に合ったがん教育を推進してください。

外部講師を用いたがん教育については、本誌に一部抜粋して紹介していますが、詳しくは文部科学省「外部講師を用いたがん教育ガイドライン」をご参照ください。

外部講師を用いたがん教育ガイドライン

検索

基本方針

地域や学校の実情に応じ、学校医、がん専門医、がん患者、がん経験者など、それぞれの専門性が生かせるよう指導の工夫を行い、教員と連携を密に図りながら実施する。

●実施の手順（例）

	学校内	外部講師との調整
①企画	<ul style="list-style-type: none"> 保護主事など中心となる教員を決め、がん教育を企画する。（テーマ、時期、講師、実施形態など） 	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関に講師の派遣を依頼する。（事前打合せ、依頼状送付、打ち合わせ日程調整）
②打ち合わせ	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の間で理解を深め、内容について話し合う。 教材冊などの資料を準備し、講師予定者との打ち合わせし備える。 	<ul style="list-style-type: none"> 講師予定者と指導内容、指導方法について打ち合わせる。（日程、役割分担、準備物、留意事項の確認）
③準備	<ul style="list-style-type: none"> 生徒への配布資料や視聴覚教材を準備する。 必要に応じて事前学習・事前指導を行う。また、保護者、生徒への事前調査を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料や視聴覚教材の調製確認をする。 講師と学校の役割分担を確認をする。
④外部講師を活用したがん教育	<ul style="list-style-type: none"> おねらいの説明、講師の紹介を行う。 がん教育を実施する。 	<p>[がん教育を実施する]</p>
⑤実施後の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 関連教科と結びつけた指導を行う。 生徒から質問、感想を聴く。 	<ul style="list-style-type: none"> 講師に感想を聴く。 生徒の感想をまとめ、指導上の課題や実施後の改善について話し合う。
⑥評価まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 成果と課題について担当者で話し合い、次年度に生かす。 結果を教職員で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 講師および講師の所属先に礼状を出す。

●実施のポイント

- 学校が主体となって企画・運営を行う。
- 授業を担当する教員だけではなく、全ての教職員の共通理解のもとに進める。
- 保護者への広報、啓発活動を同時に行うと効果的。関係者、関係機関と協力的に連携する。
- 年度当初の職員会議等で外部講師を活用したがん教育の開催予定を周知するなど、情報を共有する。

実施上の留意点

●外部講師の選定

□がんに関する科学的根拠に基づいた理解をねらいとした場合…

学校医、がん専門医（がん診療連携拠点病院の活用を考慮）など、医療従事者による指導が効果的と考えられる。

□健康と命の大切さをねらいとした場合…

医療関係者だけでなく、がん患者やがん経験者による指導も効果的であると考えられる。

●運営上の留意点

□本教材を活用した授業にあたっての留意事項（P.10参照）を講師と事前に共有する。

□授業計画の作成にあたっては、授業を企画する教員が主体となるよう留意する。

□がん患者・経験者の体験談は貴重であるが、家族に経験者がいる場合などには、強い印象を与える可能性があることに留意する。

□教員と外部講師は、事前・事後に打ち合わせを行い、授業のねらいを共通理解することが重要である。

□各教員が実施する授業と、外部講師の協力を得て実施する授業や学校行事等を関連させることで、より教育効果を高めることができる。

依頼を受けた外部講師の方へ

●内容と指導のポイント

講師が伝えたい内容で一方的に授業を構成したり、生徒が理解できない難解な言葉（専門用語）を用いたりせず、対象となる生徒の理解力など、発着・発達段階を十分考慮し、わかりやすい言葉づかいや内容を中心に心がけましょう。

□わかりやすい例を示すと学習効果が高まります。

□怖さを強調するのではなく「自他の健康と命の大切さを主体的に考えることができるようにすることが充実した人生につながる」という積極的なメッセージが含まれることを念頭に置きましょう。

●生徒の心理面について

家族や身近な人ががんの治療中であったり、がんによって亡くなったたりしている生徒への心理面の配慮が必要です。

事前調査を行うなどして、実態を把握し、授業内容について事前に話をしておくなど、必要に応じた対応をしてくください。

また、がんの原因は解明されていない部分もあり、わかっている原因については対策をとれますが、現在の科学ではがんに罹患する可能性をゼロにできないため、がん患者を支える社会の必要性に気づかせるという学習の方向性が重要です。

●小児がんについて

本プログラムで扱うがんは「成人のがん」であり、「小児がん」について学ぶものではありません。特に、小児がんの治療中あるいは既往歴のある生徒がいる場合は、事前に当該生徒の保護者にも授業実施にあたって注意すべき点を確認しておくなどの配慮が必要です。

●生活習慣病とがんとの関連性について

規則正しい生活習慣によって、将来がんになる危険性を低くすることができますが、絶対にがんにならないわけではありません。

※がんには、まだ原因が判明していないものもある。全てのがん患者が、生活習慣が悪かったという誤った印象を与えないよう注意する。

●喫煙や飲酒について

未成年の喫煙や飲酒は、法律で禁じられていることを説明するだけでなく、がんやその他の病気の予防のためにも、成人になっても喫煙や過度の飲酒を控える気持ちを育てる必要があります。

●がん検診について

がん検診によって早期にがんを発見することができ、治る可能性が高くなります。

体に不調がなくても定期的に検診を受け、体に不調がある場合は、無理や我慢をせず、病院で診てもらうことが大切です。

●指導する予防法について

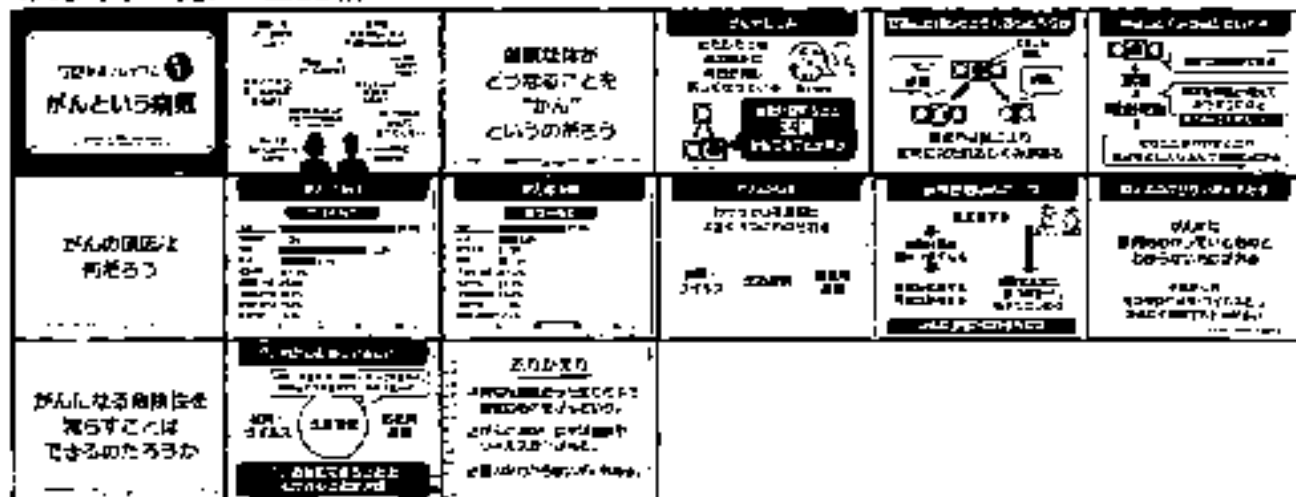
本プログラムで紹介するがんの予防については、現状で推奨できる科学的根拠に基づいたものについて示しています。しかし、現在のがんに関する研究は進められており、今後がんに関連する情報が更新されることが予想されます。そのため、常に正しい情報の収集・活用が大切です。

本モジュールでは、「がん」のしくみや、原因を知ることを通して、生活習慣に配慮することでがんになる危険性を減らすことができることについて学びます。

<授業進行案> ※授業中「心が活きたら無痛しく授業を受け続けなくてもよいことを伝える。

時間	学習活動	留意上の留意点など
5分	<p>1. スライドを用い、がんにどのようなイメージをもっているかを確認する。</p> <p>2. <u>がんのしくみを理解する。</u></p> <p>② 問いかけ</p> <p>健康な体がどうなることを「がん」というのだろう</p> <p>①自由に発言させる。 ・予想される生活習慣(食生活)について、食生活のイメージ、がんのイメージを共有させる。</p> <p>②スライドを用いて、がんは細胞が悪性化したものであることを説明する。</p>	<p>①がんについて「がん」などのイメージが示されたり伝えられたりしている点に気づかす。がんへの正しい知識や理解への興味・関心を高める。</p>
10分	<p>3. <u>がんの原因について知る。</u></p> <p>② 問いかけ</p> <p>がんの原因は何だろう</p> <p>①自由に発言させる。 ・予想される生活習慣(食生活)について、食生活のイメージ、がんのイメージを共有させる。</p> <p>②男女別のがんの上な原因のグラフを示し、がんの原因は大きく分けて3つに分類できることを説明する。</p> <p>③長生きも原因の一つであること、つまり誰かがなりうる病気であることを説明する。</p> <p>④がんは原因のわかるものとわからないものがあることを説明する。</p>	<p>①小児がんなど、生活習慣とは関係のないがんの存在を説明する。</p>
4分	<p>4. <u>自分に今できることを考える。</u></p> <p>② 問いかけ</p> <p>がんになる危険性を減らすことはできるのだろうか</p> <p>・がんの原因の中から、「生活習慣」については、自分自身でできることを確認させ、どんな生活をすればよいのか自由に発言させる。</p>	
1分	<p>5. モジュール1をふりかえる。</p>	

<スライド一覧> 全15枚



本モジュールでは、日本の「がん」の現状や、長寿になっている現状理解を通して、がんは数にでもなりうる病気であることについて学びます。

<授業進行案> 授業中に心が苦しくなったら無理して授業を受け続けなくてもよいことを伝える。

時間	学習活動	指導上の留意点など
14分	<p>1. スライドを用い、がんにどのようなイメージをもっているかを確認する。</p> <p>2. 日本のがんの現状を理解する。</p> <p>①問いかけ</p> <p>日本ではどれくらいのがんになっているのだろう</p> <p>①自由に発言させる。 → 想像される生活の場：10人に1人(らしい)か多い(らしい)</p> <p>②スライドを用いて、がんになる人12人に1人。 また、がんで亡くなる人は3人に1人である現状を説明する。</p> <p>③がんは細胞が分裂するときに変異し悪性化したものであることをふりかえる。</p> <p>④スライドを用いて、日本の平均寿命が年々延びていることを確認する。</p> <p>⑤がんは細胞分裂のときに変異し悪性化したものであることから、長生きすれば細胞の変異の可能性が高まること、また、加齢により細胞が正常に保つ働きが低下しはじめることを確認する。 →がんは誰もがなりうる病気</p> <p>⑥参考情報として、50才前後からがん患者が増えることや、男女別の患者数の違いについて説明する。</p>	<p>①がんについて「怖い」などのイメージでしかとらえられにくいことと気づかせ、がんへの正しい知識や理解への興味・関心を高めよう。</p> <p>②本モジュールでは生活習慣を提示していますが、口癌などで「平均寿命が伸びてがんになる可能性が高まっているから」と、誤解からがんの原因が誤りであったり、早めのがんを見つけて治療することが必要だなど、誤った理解や偏見につて触れておきましょう。</p>
1分	3. モジュール2をふりかえる。	

<スライド一覧> 全12枚



本モジュールでは、がんは発生から自覚症状が出るまでの期間が長いことを知ることを通して、症状がなくても検診を受けることの重要性について学びます。

＜授業進行案＞ 授業中に心が苦しくなったら無理して授業を受け続けなくてもよいことを伝える。

時間	学習活動	指導上の留意点など
15分	<p>1. がんは体のいたるところにできる可能性があることを知る。</p> <p>② ①の問いかけ がんは体のどこにできるのだろう</p> <p>①自由に発言させる。 ・予見されるがんの病名が、同じく「がん」であることによる。本質、具、体のいろいろなところ など</p> <p>②スライドを用いて、がんは細胞分裂の変異によるものなので、体のいたるところにできる可能性があることを伝える。</p>	<p>①発言事例として、心臓の初期にはできにくいこと、アザや皮膚など「目立つ」場所から「目立たない」場所まで伝える。</p>
15分	<p>2. がんは自覚症状が出るまでの期間が非常に長いことを知り、自覚症状がなくても検査に行くことが必要であることを確認する。</p> <p>② ①の問いかけ がんはどのように進行するのだろう</p> <p>①【ワーク】スライドを基に、がん検診で小さながんが発見された場合、悪性のセリフからわかることは何か考えさせる。 ・がんは小さなうちに発見し、治療が早い。がんが大きくなってから発見されることが多い。</p> <p>②がんは自覚症状が出るまで10～20年かかることもあることを伝える。</p> <p>③自覚症状が出る前がんを見つける方法は何か問いかけ、定期的に検診を受け、早めに発見することが大切であることを伝える。</p>	<p>①モジュール5の「がんの発生」について改めて読み返すことで、発がんの仕組みが理解されることを推奨します。</p>
1分	3. モジュール3をふりかえる。	

＜スライド一覧＞ 全9枚



＜資料スライド＞ 本モジュールに関連した情報となります。必要に応じて活用ください。

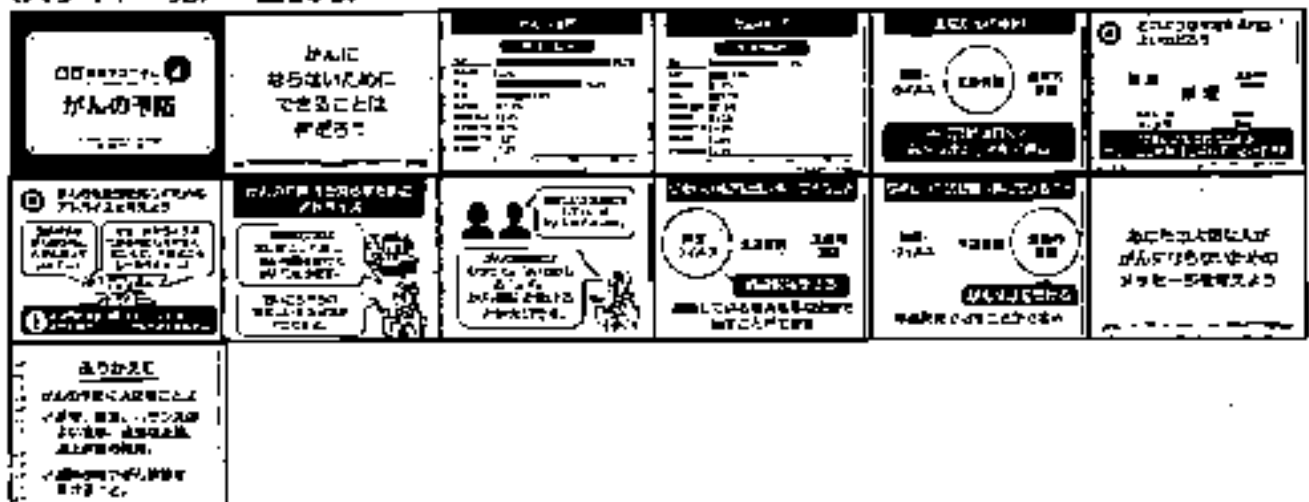


本モジュールでは、がんの原因についてふりかえり、自分たちが気をつけることで、がんの危険性を軽減することができることについて学びます。

＜授業進行案＞ ※授業中に心が苦しくなったら無理して板書を受け続けなくてよいことを伝える。

時間	学習活動	指導上の留意点など
12分	<p>1. がんにならないために自分ができることを知る。</p> <p>① ① 発表 がんにならないためにできることは何だろう</p> <p>②自由に発言させる。 ・予想される発言例：たばこを吸わないこと、好きなものをたくさん食べること、など</p> <p>③スライドを用いて、男女別のがんの原因を確認し、がんの主な原因は3つに分類できるが、その中で「生活習慣」については自分で気をつけることができることを確認する。</p> <p>④【ワーク】どのような生活を送ればよいか、発言させる。 ・予想される発言例：早く寝る、食器の消毒を怠らないうる、運動するなど</p> <p>⑤禁煙や節酒など望ましい生活習慣が大切であることを確認する。</p> <p>⑥【ワーク】望ましい生活習慣が大切だとわかっても、忙しさなどを理由にそのような生活を送らない人に対して、どうアドバイスをすればよいか考え、グループでロールプレイを行わせる。</p> <p>⑦スライドを用いて、アドバイス例を伝え、身近な人に伝えていくことが大切であることを確認する。</p> <p>⑧がんの原因にはわかっていないものもあるため、がん検診を受けたり、感染対策をすることが大切であることを伝える。</p>	<p>※がん検診の受診率や喫煙率の現状などを説明し、健康増進の生活習慣についてグループで調べ学習を行ってほしい。</p> <p>※このワークの登場人物は、生徒の年齢や性別を考慮して入替す。その際、同様の役割をどのようにアドバイスすればよいかを考えることがポイント。</p>
2分	<p>2. 大切な人ががんにならないためのメッセージを考える。</p> <p>② ② 話し合い あなたの大切な人ががんにならないためのメッセージを考えよう</p> <p>※ここでは自宅での確認とする。 (もし時間に余裕があれば、兩人で考え、手紙を書くなどの時間をとり、対象の方へそのメッセージを渡すように促す)</p>	
1分	3. モジュール4をふりかえる。	

＜スライド一覧＞ 全13枚

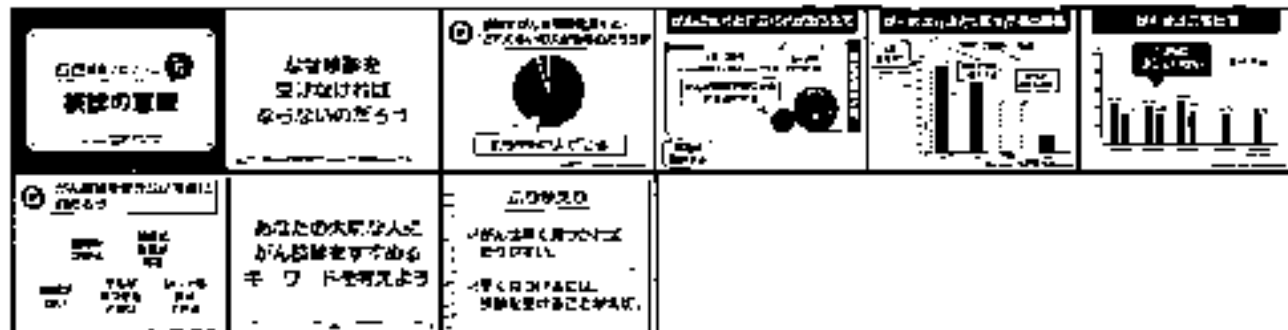


本モジュールでは、早期発見により約95%の人が治ることを知り、がん検診を受けることの大切さについて学びます。

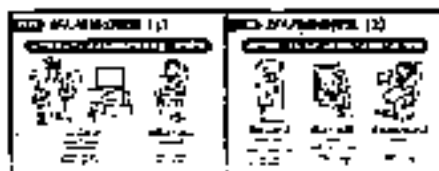
<授業進行案> ※授業中に心が苦しくなったら無理して授業を受け続けなくてもよいことを伝える。

時間	学習活動	指導上の留意点など
7分	<p>1. <u>がん検診の有効性と、日本での受診率の現状について知る。</u></p> <p>①がん検診について知っていることを発言させたあと、国が推奨しているがん検診について説明し、さまざまな検診を推奨していることを確認する。</p> <p>②【問い】 なぜ検診を受けなければならないのだろう</p> <p>③自由に発言させる。 - 早期発見により、早く見つかるのはいいと思うから、検診をみんな受けることがいいから、など</p> <p>④スライドを用いて、検診でがんを早期発見すると約95%の人が治ることや、自覚症状が出るまでに10年以上かかることもあるため、検診で見つけることの有効性について確認する。</p> <p>⑤また、がん検診の受診率は50%と進していない現状を伝える。</p> <p>⑥【ワーク】なぜ、がん検診の受診率が約50%程度だと思うかをペアまたはグループで話し合わせ、発表させる。</p> <p>⑦スライドを用いて、がん検診を受けない人の声を知り、自分の大切な人へどう伝え、どう働きかけたらよいか考えさせる。</p>	<p>資料スライド1「がん検診の意味」を入れておくので必ず確認してください。</p>
2分	<p>2. <u>大切な人にごがん検診をすすめるキーワードを考える。</u></p> <p>⑧【問い】 あなたの大切な人にごがん検診をすすめるキーワードを考えよう</p> <p>※ここでは自宅での宿題とする。 (もし時間に余裕があれば、個人で考え、手紙を書くなどの時間をとり、対象の方へそのメッセージを渡すように促す)</p>	
1分	<p>3. モジュール5をふりがえる。</p>	

<スライド一覧> 全9枚



<資料スライド> 本モジュールに関連した情報と取りよず、必要に応じてご活用ください。



本モジュールでは、がん治療法について知り、がん治療においてそれぞれの治療法を理解し、自分で納得して選択する（決める）ことの大切さについて学びます。

＜授業進行案＞ ※授業中に心が重くなったら休憩して気持ちを軽くしてから授業を受け続けなくてもよいことを伝える。

時間	学習活動	指導上の留意点など
6分	<p>1. がんの治療法について知る。</p> <p>① （問いかけ） がんはどのように治すのだろう</p> <p>② 自由に発言させる。 - 予備知識があるかどうかを確認し、自由に発言できるように促す。</p> <p>③ がんの治療法は主に3つあり、がんの種類や状態によって選ぶこと、いくつかの治療法を組み合わせることもあることを伝える。</p>	
8分	<p>2. 治療法は自分で納得して選択すること。そのためには十分な説明を受け、理解することが大切であることを確認する。</p> <p>① （問いかけ） 治療法を決めるとき大切なことは何だろう</p> <p>② 自由に発言させる。 - 決めるときは、納得できるまで医師と十分に話し合い、最終的に自分で選択することが大切であることを伝える。</p> <p>③ 治療方法は医師によって異なることがあるため、別の医師に意見を聞いてよいことを伝え、自分が納得して選び、後悔のないよう決めることの重要性を再度確認する。</p>	
1分	3. モジュール6をふりかえる。	

＜スライド一覧＞ 全7枚

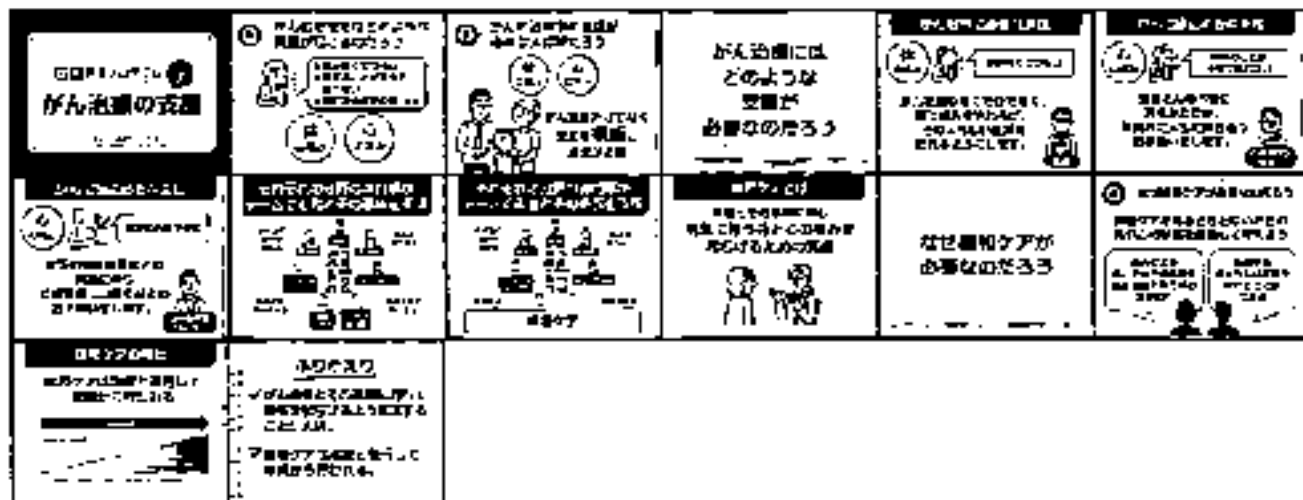
＜資料スライド＞ 本モジュールに関連した情報があります。必要に応じてご利用ください。

本モジュールでは、がん治療は長期にわたることが多いため、がん患者やその家族にさまざまな問題が生じることを知り、それぞれの分野の専門家と、その人らしく生きるための支援が行われていることについて学びます。

<授業進行編> ※授業中にもが楽しくなったら無理して授業を受け続けなくてもよいことを伝える。

時間	学習活動	指導上の留意点など
14分	<p>1. がんの治療に必要な支援と、その考え方について知る。</p> <p>①がんになるとどのような問題が生じると思うかを発言させたあと、長期にわたる治療により、さまざまな問題（苦痛）が発生することを伝える。</p> <p>②がんの治療中に支援が必要な人は誰だと思うかを発言させたあと、がん患者だけでなく、支える家族もさまざまな問題を抱えることを伝え、がん治療に必要な支援とは何かについて関心を高める。</p> <p>③【ワーク】 がん治療にはどのような支援が必要なのだろう</p> <p>④自由発言させる。 予習された生徒の意見が活用しにくくなるようであれば、簡単に代わりを提示する。</p> <p>⑤スライドを用いて、「体の痛み」「心の痛み」のそれぞれに専門家による支援があり、病気に伴う体と心の痛みを和らげる支援を緩和ケアと呼ぶことを伝える。</p> <p>⑥【ワーク】 なぜ緩和ケアが必要なのだろう</p> <p>⑦【ワーク】緩和ケアがあるととき、ないときの体や心の状態を想像させ、緩和ケアがなぜ必要かについてグループで話し合わせ、発表させる。</p> <p>⑧緩和ケアは治療のスタートと同時に進行していること、そして単にがんを治すだけでなく、その人らしく生きるための支援であることを伝える。</p>	<p>※「問題」のイメージがわかりにくい場合は「人間は心くらくらしているから」、など言葉がしづらなことで不安を感じることを表現させるとよいでしょう。</p>
1分	<p>2. モジュール7をふりかえる。</p>	

<スライド一覧> 全13枚



本モジュールでは、がんを経験した方の考えや思いを知り、がんの治療は、単に病気を治すだけでなく、治療中、治療後の“生活の質”を大切にし、がんになってもその人らしく、充実した生き方ができることが重要であることについて学びます。

<授業進行案> 授業中に心がざしくなったら無理して授業を続けず、お休みをとり、お休みを返す。

時間	学習活動	指導上の留意点など
14分	<p>1. がん患者の治療に必要な支援とその考え方について知る。</p> <p>① 思いやり がん患者は何を望み何を求め、何を求めているのだろうか</p> <p>② 自由に発言させる。 ・ 想像される生活の質は、がん治療によってどう変わるのか、何を求めているのか、何を求めているのか、など</p> <p>③ 【ワーク】 2人の事例を読み、がん患者が何を望み、何を求めているかについて改めてグループで話し合わせ、発表させる。</p> <p>④ がん患者一人一人、背景や状況が異なるが、がんとともに歩む気持ちをもち、自分らしく生きようとする（生活の質「クオリティ・オブ・ライフ」の維持・向上）が大切であることを確認する。</p>	<p>本授業で扱っている事例以外に、2名のがん患者へのインタビュー映像も活用して授業する。そのほか、がん患者の思い、がん患者が望むことについて話し合ってもらいたい。</p>
1分	2. モジュール8をふりかえる。	

<スライド一覧> 全6枚



本モジュールでは、がん患者との共生に必要な視点や考え方を知り、がんについて正しく理解することが患者が暮らしやすい社会につながることについて学びます。

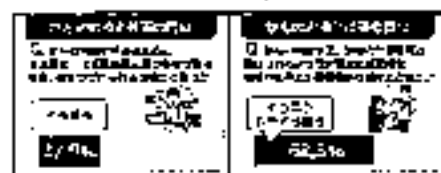
＜授業進行案＞ ※授業中に心がざしくなったら無理して授業を受け続けなくてもよいことを伝える。

時間	学習活動	指導上の留意点など
7分	<p>1. がん患者との共生に必要なことについて知る。</p> <p>① 問いかけ がん患者とどのように接すればよいのだろう</p> <p>② 自由に発言させる。 ・ 4人組を3つのグループに分けて、それぞれに1人ずつ1分ずつ発言させる。</p> <p>③ 事例を読み、どのように接すればよいと思うかを考えさせ発表させる。 ・ 2つの事例を読み、グループで分組発表。選択して他組するなどアレンジしてください。</p> <p>④ がん患者一人一人、背景や状況が異なるが、多くのがん患者は家族や友人にこれまで通り接してほしいなど、さまざまな願いがあることを確認する。</p>	<p>①事例はよくよく一読し、必ずしも全員が正しいことを伝えらるべく、他からここでコミュニケーションをとり、自分の考えが他人に伝わっているかを確認することで大切であることを伝えましょう。</p>
7分	<p>2. がん患者が暮らしやすい社会にするためには、すべての人ががんについて正しく理解することが必要であることを知る。</p> <p>① 問いかけ がん患者が暮らしやすい社会とはどのような社会だろう</p> <p>② 自由に発言させる。 ・ そのほか、各グループから1人ずつ発言させるよう心がける。</p> <p>③ 【ワーク】事例を読み、どのような社会が暮らしやすい社会だと思うか、グループで話し合わせ、発表させる。</p> <p>④ がんへの正しい理解が、誰もが暮らしやすい社会につながることを確認する。</p>	<p>③事例に準拠する場合は、そのような社会にするために、わたしたちがやるべきこと、自分たちができることを考えさせてみましょう。</p>
1分	3. モジュール9をふりかえる。	

＜スライド一覧＞ 全10枚



＜資料スライド＞ 本モジュールに関連した情報と取りまき、必要に応じて活用ください。



参考情報

スライド教材の、ワークや事例を掲載しています。コピーして生徒に配付する、先生が作成されるワークシート等へ貼付するなど、アレンジしてご活用ください。

モジュール4

がんの危険性を軽減するためのアドバイスを考えよう

生活習慣が
がんの予防に大きく
知っていますよ！

でも、体がしんどい
だから気にしてません。
忙しくて、これどころ
じゃありませんよ…



Aさん (40歳)

＜アドバイス＞

モジュール8

事例1



進行したがんとわかり、
抗がん剤治療を続けている。

仕事を続けるため、通院しながらできる治療
法を選んだ。

子どもに病気のことをゴッ話すが悩んでいる
が、今は家族との時間を何よりも大切に過ご
したいと思っている。

事例2



乳がん切除に大きな傷が
残り、自信を失って
陸じこもりがちになっていた。

患者の会に入っ同じ乳がんの仲間と出会い、
貸切の温泉に入ることができるようになった。
好きだった旅行を楽しむことができるよう
になった。

これからも生き生きと自分らしく生きたいと
思っている。

モジュール9

事例1



友人という時間は、病気とは何の関係もない自分でいられる時間です。

何でもない話をして、一棹に笑って、ともに過ごすことで、「患者」としてではない、これまで通りの「自分」を取り戻せるような気がします。

事例2



友人にがんになったことを伝えたとき、「生活習慣が悪いからがんになったんだ」と、あっけらがんと言われました。

わたしは共働りで、妻と交代で食卓を作っていました。常にバランスの良い食事を心がけていたつもりですし、妻も褒められくいるような気持ちになり、悲しくなりました。がんに対する誤解や決めつけがなくなればと思います。

事例3



親戚にがんになったことを伝えたとき、「かわいそう」と泣き出されてしまいました。

心配してくれてありがたいという気持ちはあったものの、調子の悪さ、もうわたしは治らないのではないかと、死を待つしかないのではないかと、気持ちになり落ち込みました。

モジュール9

事例



営業の仕事で働いていましたが、30代でがんとわかり、手術と抗がん剤治療を受けました。今も定期的に病院に行って体調を管理しています。

体力が衰えきらず、仕事を続けることが難しくなり、退職を告げるをえ言せんとした。好きな職場だったので、本当に残念でした。ただその後、病気のことを理解してくれる職場と出会い、今は、体調を優先して働くことができています。

小学校向け映像教材



小学校向けがん教育教材では、以下の内容の映像教材を提供しています。
中学生、高校生でも参考にしていただけますので、目的に応じてご活用ください。

映像教材①「がん博士ががんについての基礎知識」(6分35秒)

	<p>質問① どうしてがんになるの？</p> <p>「どうしてがんになるのか」について、説明しよう。私たちの体には、たくさん細胞ができていて、この細胞は、同じものをコピーしながら新しくなっていくんだけど、まれに、別の細胞ができてしまう。それが、がん細胞になることがあるんだ。がん細胞は、どんどん増えていく。そうすると、正しい細胞が正しく働かなくなってしまう。その害気のことをがんと言った。私たちの体はたくさん細胞ができてきているのだから、がんという病気は誰もがなる可能性があるよ。</p>
	<p>質問② がんにならないためには、どうすればいいの？</p> <p>2回分の ついで、かぼち、そして、お酒の飲みすぎ、さらに、生活習慣の改善、タバコを多く食べて、野菜はあまり食べなかったり、糖分を取りすぎたりしてしまうなど、また、運動不足や食べ過ぎによる太りすぎ、反対に、やせすぎもよくない、がんになる可能性が高くなってしまふ。がんの予防をつくらない予防のためにも、健康に良い生活習慣を送ることが大切だ。</p>
	<p>質問③ がんは、なおすことができるの？</p> <p>がんがまだ小さいうちに治療すれば、ほとんどの人のがんを治すことができるようになったんだ。だから、小さいうちに、がんを見つけることが大切。右田川のこと、がんが小さいうちは自覚症状がなく、自分自身では気づきにくい。気づいたときにはすでにがんが大きくなってしまっていることが多いんだ。だから、「早期発見」と言って、できる限り小さいうちに早く見つけることが大切なんだよ！</p>
	<p>質問④ どうすればがんを早く見つけられるの？</p> <p>がんがどうかを調べそのは、まず、何の症状もなく主治医さん定期的に診てもらって、「がん検査」が必要なんだ。検査では、尿や胃液と、体のそれぞれの場所に応じて検査をして、自分では気づかない小さな異常を見つけることができるんだ。がんは、早く見つけられれば、ほとんどが治る可能性の高い病気。検査がよ、必ず予防、健康に良い生活習慣、そして、もう一つが、早期発見のためのがん検診。この2つを必ずよく覚えておいて、実行してほしい。そしてみんなの大切な仕事にも、役立ててほしい。元気に日々を送るためには、健康が大切。健康のためで生きていくことを今から始めよう。</p>

映像教材②「かんと生きる」

長谷川一男さんのエピソード(5分24秒)

	<p>がんとたたかったときに、もう誰が真」目です。当時、小学校2年生の息子と幼稚園1歳の娘がいたの、子どもにどう伝えればいいのか。4日間一睡もしなかったのを覚えています。自分が治療に向き合うきっかけとなったのは、一人のお医者さんの「可能性はゼロじゃない。ゼロでないんだから戦うべきじゃないか。」という言葉。それから、子どもたち、毒のために亡、病をいくま元を話し合っ治療法を決め、治療を進めときました。私が今、一番大切にしているのは、自分が経験したことを、がんを患う人たちに共有していくことです。みんなで話し合っ戦をしてくって、病気に闘う仲間を聞いています。そこに、先生を呼んで、相談しながら正しい情報を受け取り、勇気を出していきま。みんなで励まし合っ場をつくっているのです。みなさんには、「病気になるても自分の人生がで後悔しないように生きる。」ということを強く伝えたいです。自分の人生を大切に、後悔しない、そういう生き方をしたいと思っています。</p>
--	--

高本久恵さんのエピソード(5分03秒)

	<p>がんとの闘いは検査でした。とてもショックで、残ってしまう事への心配がこぼれかかったとき、ごち、ご三のようにお見舞いに来くれた事後の元気と励ましで、治療をがんばることができました。今はパン屋で仕事をしています。毎朝はすごく楽しい。パン屋の仕事はすごく力を使う身体活動ですが、やっぱり自分から作れたかった仕事に就けて本当に良かったと、毎日思っています。今、大切にしていることは、家族のためのパン屋のよい仕事を作って、家族が健康であるように努めることです。今まで心配をかけたが、家族には健康を聞いてほしいと考えています。毎日家族と一緒に笑っているのがとても幸せです。健康であら自分の夢を叶えます。パン屋のいい仕事をとって、毎日楽しい生活をして、毎日送ってくださ。そして、家族を大切にしたいと思っています。</p>
--	--

モジュール組合せ例

本教材は授業のねらいに合わせて、さまざまな組合せが可能です。



がんについて正しく理解させたい！

時間 1時間（50分）

●組合せモジュール

モジュール1
がんという病気
（10分）

※項目4・5をカット

モジュール2
日本のがんの現状
（12分）

※項目1・3をカット

モジュール3
がんの発生と進行
（14分）

※項目3をカット

ディスカッション
（14分）

がんになる
危険性を減らすには
どうすればよいか

※各モジュールの授業進行表の「1,2,3…」を項目と位置づけています。



がんの予防について理解させ、行動にうつさせたい！

時間 1時間（50分）

●組合せモジュール

モジュール4
がんの予防
（23分）

※項目1の2,3にく、グ
ループで調べ活動を行う。
※項目2・3をカット

モジュール5
検診の意味
（12分）

※項目2・3をカット

ワーク
（15分）

あなたの大切な人ががん
にならないためのメッ
セージを考えよう

※各モジュールの授業進行表の「1,2,3…」を項目と位置づけています。



がん患者のおもいを理解させ、自分にできることを考えさせたい！

時間 1時間（50分）

●組合せモジュール

モジュール8
がん患者のおもい
（14分）

※項目2をカット

モジュール9
がん患者とともに
生きる社会
（14分）

※項目3をカット

ワーク
（22分）

・がん患者が暮らしやすい社会の実現
には何かが必要か考える
・自分たちにできることは何か考える

※各モジュールの授業進行表の「1,2,3…」を項目と位置づけています。

●文部科学省「がん教育推進のための教材」

学校においてがん教育を実施するに当たり、効果的な指導が行えるような補助教材です。

http://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hokery/1369992.htm

●株式会社キャリアリンク「がん教育プログラム（小学校版補助教材）」

（文部科学省委託事業）

上述した「がん教育推進のための教材」に対応した小学生向けの教材です。

1時限で「がんの正しい知識」と、「健康と命の大切さ」について理解を深める学習指導案や映像教材、ワークシートを提供しています。



●文部科学省「外部講師を用いたがん教育ガイドライン」

学校において、医師等の外部講師がかん教育を実施するに当たり、最低限留意すべき事項等を示すガイドラインです。

http://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hokery/1369991.htm

●国立がん研究センター がん対策情報センター 「がん情報サービス」

<http://ganjoho.jp/>

本プログラム作成にあたっては、作成委員会を設置し、アドバイスおよび監修いただきました。

作成委員会メンバー一覧（五十音順）

植田 誠治氏（聖心女子大学 文学部教育学科教授）

塚崎 好起氏（岡山県教育庁 保健体育課 健康・安全教育班 指導主事）

中川 恵 氏（東京大学医学部付属病院 放射線治療部門長）

林 和琴氏（東京女子医科大学 がんセンター 長 化学療法・緩和ケア科教授）

広野 光子氏（がんを明るく前向きに語る・全こなまの会（自助努力の患者会）代表、ジャーナリスト）

平成29年3月
株式会社キャリアリンク
(文部科学省委託事業)